

平成29年度 第2回黒松内町総合教育会議事録

1. 期 日 平成29年12月19日(火)
午前10時00分から午前11時20分
2. 場 所 コミュニティ防災センター 町民活動室1
3. 出席者 (構成員)
- | | |
|---------|-----------|
| 町 長 | 鎌 田 満 |
| 教 育 長 | 内 山 哲 男 |
| 教 育 委 員 | 池 田 重 人 |
| 教 育 委 員 | 成 田 志 津 代 |
| 教 育 委 員 | 岡 久 孝 雄 |
| 教 育 委 員 | 金 石 澄 子 |
- (事務局)
- 教育委員会教育次長 鈴木 浩 勝

本日の会議に付した事件

- (1) 白井川地域教育懇談会について
- (2) 平成30年度教育関連予算について
- (3) 当面する黒松内町教育課題(協議)について

会 議 の 顛 末

事務局 平成29年度「第2回黒松内町総合教育会議」を始めさせていただきます。
1番、総合教育会議の開催に当たり主催者の町長より挨拶いたします。

町 長 皆様、おはようございます。

お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

皆様には、日頃から教育行政の推進に大変なご尽力をいただいておりますことに對し、この場をお借りして私からお礼を申し上げる次第でございます。

今年も残すところ2週間となりました。雪の降り始めの時期が早く、特に本町が近隣町村と比べても多雪であるようです。町では、年末までに2回目の排雪を行い、国道や道道も近いうちに行うと聞いています。

今年を振り返りますと、総合体育館がオープンし7ヶ月が経ち、1万7千人に利用をいただき、すでに例年の利用者数を超えています。引き続き、健康づくりやコミュニティづくりの場として、にぎやかにご利用いただきたいと考えています。

一方、9月には台風被害がありました。本町の1日当たりの降雨量としては最大値となる194.5mmが降り、いたる所で水浸しになり、河川も水位が上がりましたが、人的被害を含めた大きな被害が無く、乗り越えることができました。

町の対応では準備不足があり、反省すべき点が見られましたので検証するとともに、教訓として捉え、町だけではなく、色々な方をお願いをして、今後活かしていきたいと考えております。

避難指示では、学校や教育委員会との連絡の不徹底がありましたので、今後はしっかりとした体制にしてまいります。

また、町は来年2月に冬の避難訓練を北海道と一緒に計画があり、本部体制の準備の仕方を訓練に組み込み、また、8区と黒松内公住を対象に行いますので、児童館の子どもたちとも一緒にできないかを考えています。

本日の会議では、新年度予算と教育的な課題等を議題としておりますので、委員の皆さんからも色々なご意見を聞いた上で、来年度の予算査定に当たりたいと思っております。

委員の皆様には引き続き、教育の推進に取り組みくださいますようお願い申し上げます。開会のあいさつといたします。

今日は、ありがとうございます。

事務局 それでは、2番、出席者の紹介をいたします。

本日は、町長、教育委員4名の皆さん、教育長の6人全員に出席いただいております。

続いて、3番、議題からは、町長に進行をお願いいたします。

町長 それでは議題に入ります。

(1)白井川地域教育懇談会です。教育長から報告ください。

教育長 白井川地域教育懇談会の概要を報告いたします。

1月10日金曜日に、白井川青少年会館で開催しました。参加者は、住民代表とPTA代表、教育活動実践者、地域づくり支援員と私の5名が出席、事務局は教育次長ほか2名の職員が同席し、1時間40分間行われました。様々な意見が出され、大きく区分しますと学校・地域と子ども・地域づくりの3点に分かれました。

最初に、白井川地域の学校の統廃合については、平成8年度時の話が出ました。「教育委員会では議論されていたと思うが、地域への説明がない中で進められたことは、今でも地域で不信感がある。」「状況を考えると学校は統合されると思うが、地域の声はしっかりと聞く、スケジュールは時間をかけて進めてほしい。」「白井川地域以外の人は、小規模校がある意味を知らないのではないか。」などです。

仮に、白井川小学校と白井川中学校が統合されるということは、本町に小規模校が無くなることとなります。過去に、大成や豊幌、作開等の小学校を統合した際には、まだ、中ノ川や白井川に学校があるという状況でした。中ノ川の統合時でも白井川がありましたが、白井川の場合は町内で小規模校の選択肢が無くなります。

「この考えを地域全体で分かっているのか、併せて、小規模校が持っている機能を皆さんに知ってもらいたい。」や、「地域状況としては、マンパワーが不足していることで、学校を支えたいが実際に支えることが人口減少や高齢化から不安である。」「先生が地域行事に参加されることで、地域でも学校を応援したい。」との意見もありました。

次に、地域と子どもについての観点でお話しがありました。

「子どもたち全員が、地域内では家族のような環境で支えられている。」「お年寄りも子どもたちとあいさつをすることで、生きがいになっている。」など深い意見がありました。

「子どもたちに次の時代に伝えたいことは、大人が示すべきであり、子どもたちが地域に対する意識の高まりにつながる。」「今、大人が何ができるのか、教えるのではなく、教わりたくなるような環境づくりが重要である。」との意見を、私は聞いて、確信を得た感想を持ちました。

そして、地域づくりでは、「行政に頼るのではなく、自分たちで取り組むべきではないか。」との意見がありました。この場の話しではないかもしれませんが、「具体的として、町内会を6つから2つにまとめて、マンパワーを集めることはどうなのか。」との意見もありました。大人が地域を変えていくことを考えているという姿を子どもに見せる、残すというものです。

懇談会は、年1回程度を予定していましたが継続して開催し、また、出席者も次回とは違う方も含めた中で開催したいと考えています。来年度は、5月頃に第2回目を開催します。

何かご質問がありましたら、お願いします。

町 長 ご質問は、ありますでしょうか。

教育長 補足いたします。2名の出席者からは、学校統合では、小学校は存続させて中学校統合のことを考えていると感じました。

委員① 懇談会の内容は、先生は知っているのですか。

教育長 懇談会には出席しておりませんが、概要は校長会でお話していますので、校長を通じて先生にお話しいただいています。

町 長 私としてもこのような話し合いを積み重ねて、遠くないうちに方針を地域の方と共有していただきたいと思っています。避けては通れないことですので、次回以降は色々な方と話し合うことは大切であると感じています。

教育長 話し合いを重ねると、統合した時にどうなるのかの話が出ると想定しています。
現在は、白井川小学校と中学校は特区扱いであり、黒松内校区の児童生徒が白井川の両校に入学する場合は、町で通学の手段を提供していますが、逆の場合は行っていません。
もし、中学校の統合時期が決まった後には、中学校1年生の段階から黒松内中学校に入学したいという生徒がいると予想しています。事務局では、この場合の通学の確保の有無を考える必要があります。

町 長 方針が出た場合は、教育長の話のように事前に黒松内中学校を選択する生徒はいると思いますし、尊重しなくてはいけないと思います。その場合は、今までとは異なり、通学の確保を町がしなくてはいけないと、第一印象として思います。

委員② 資料には、学校の存続の判断は、保護者の思いが地域の思いより大切と書かれていますが、保護者の思いでは、どうして白井川の学校に入れたい理由などを明確に把握して整理しなければ、保護者の自己中心的な思いだけで、学校の存続の判断につながってしまう。保護者ではなく、子どものことを中心にした見方をした方がよい。現在の児童生徒の白井川校下の人数は少なく、黒松内校下から通学している方もいるので、選択した理由を明確に聞き取ることが必要と思います。
今回の懇談会は選ばれた方々ですので、老人クラブの方などもっと地域内のサークルの方々からも意見を聞き取る機会が必要だと思いますし、私も知りたいと考えています。

町 長 どうでしょうか。このことは、何回も行わなくてはいけないことと思いますし、委員のご意見のように色々な方法を考えながら、決してこのメンバーだけではなく、様々な地域の方とお話しをすることは大切であると考えています。教育委員会において、

進め方を考えていただきたいと思います。

事務局 今回の懇談会の出席者からも、次回は違うメンバーを集めてはと意見をいただいております。

全員を変えるのか、一部の方を変えるのかはありますが、引き続き、地域の方々のご意見をいただきます。

委員③ 数年前に開催された説明会には、保護者の方も入って意見を聞きました。

私も保護者として出席しました。中学校は3年間だけですので、短い期間の保護者だけの意見を聞き、影響されるのはいかがかと思えます。

しかし、再度、動き出しましたので、色々な方の意見を参考に判断していくことは良いことと思えます。見通しとしては、来年の両校の児童生徒は何名ですか。

教育長 白井川中学校は3名、白井川小学校は入学者が1名で6名の予定です。小学校は児童数が減りますが、学級数は同じですので、先生の数が変わりません。

しかし、平成31年度は学級数が1つ減少し、先生も減ります。白井川地区では入学前の幼児が数名います。

町長 そうです。子どもは、ずっといるかは分かりませんが、数名います。

先日には、幼児が遊べる場がほしいとの要望がありました。小学校の野外遊具だけではなく、近い場所にもほしいとの声でした。

幼児もいますが、地域内での生産年齢の減少をみると、児童生徒の数を増やすことは難しい現状です。

この件については、継続して懇談会を重ねていくことでご理解をいただければと思います。

次の議題の(2)平成30年度教育関連予算に進みます。事務局から説明してください。

事務局 平成30年度教育委員会予算の積算方針を基に、要点を説明いたします。

平成30年度予算も、平成27年12月に総合教育会議にて策定した教育大綱を基に施策を実施いたします。

本町に住む人々が心豊かに健やかに生きがいを実感できる暮らし、子どもの育成、豊かな地域づくりにつながる取組を目的とし、実施します。

3年度前には子育て支援グループが加わったことも含めて、教育委員会だけではなく、福祉施設である黒松内保育園、南後志児童デイサービスセンター等や、ブナセンターやキャンプ場、添別ビジターセンターを担当していることから観光協会等との関係者との調整・連携づくりが重要です。

また、歌オブナ林天然記念物指定90周年を記念する年であるため、教育委員会ではブナセンターを中心に、企画環境課やその他関連する団体等と共同し、関連する記

念事業を実施します。

このような状況の中で、教育行政の推進上の課題を5点上げています。

①各施設において臨時職員等の確保が困難、②各施設及び備品は老朽化により改修・修繕工事、備品更新購入による予算額増加、③町民ニーズの高まり、多様化等による事務事業等の増加、④住民による自主組織づくりの支援です。そして、⑤人口減が進み、住民協働活動が活発ではありますが、活動に関わっている町民が固定化しつつあり継続維持していくためには、社会福祉協議会やたべるとくらしの学校、地域づくり、各種イベント等の既存の取組や体制を整理・統合するための担当課や団体を越えた協議を複数年かけて行うことが必要と考えています。

主要な事業の区分は、教育大綱の方針別に4つに分けて掲載しています。主要内容をご説明します。

「1 学校と地域、保護者、関係団体が一体となりまち全体で子供たちを守り育てます。」の学校教育では、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を地域とともにづくり、開かれた学校を目指すため、黒松内中学校をモデル校として開始いたします。北海道が進める「1日防災学校」に、白井川小学校が9月実施にて申請します。社会教育・保健体育では、発達障害・メディア教育は、元気キッズクラブ運営委員会事業において学校と家庭教育講座を定例的に実施していきます。

「2 幼児から学齢児まで切れ目のない一貫した教育を展開し、未来を担う子供たちを育てます。」の学校教育では、小学校において平成32年度から外国語等の新課程の移行期間を円滑に進め、そして、充実をするため、外国語講師派遣業務委託を計画しています。地方創生総合戦略に記載されている町営塾は、引き続き運営いたします。子育て支援では、助産師による相談の機会づくりを増やし、妊婦や出産後の母親が安心して育てる環境づくりを図ります。黒松内保育園内の地域子育て支援センター運営費補助金を計上し、子育て世代包括支援センター(保健型・妊娠・出産)との役割の明確化、子育て世代が利用しやすい環境づくりを目指します。

「3 豊かな自然を保全し、心豊かに、ともに支え合う人を育てます。」の社会教育・保健体育では、中学2年生を対象とする世界文化遺産・西予市交流体験学習事業を社会教育事業として実施いたします。文化振興では、歌オブナ林天然記念物指定90周年の記念事業を実行委員会により取り組む経費を計上しています。平成5年度にオープンしたキャンプ場は、利用者から要望があるカーサイト改修工事、経営ビジョン案に示された可能な取組を順次進め、集客増をめざし地域の経済効果を高めたいと考えています。

「4 文化、スポーツの環境を整え、機動的な組織づくりを進め、ふるさとと平和を愛する人材を育成します。」の社会教育・保健体育では、ふれあいの森情報館活動の充実のため、司書1名を増員する経費を計上しています。文化振興では、ふるさと語ろう屋とともに郷土品の収集を行っていますが、未整理でありますので郷土品整理作業のアドバイザー等の経費を計上し、また、郷土品の保管・展示場所の候補地選定を早急に行いたいと考えています。選定案ができしだい、教育委員にご提案いたします。

教育大綱にはない項目ですが、「5 その他（管理業務含む・予算の見直し縮小事業・工事等）」です。学校教育では、白井川小学校・中学校への児童生徒の送迎も兼ねた小規模学校支援事業を取り止め、スクールバス運行に組み入れます。

最後に要望予算額を説明します。民生費では児童福祉経費を、衛生費は母子保健経費、教育費では教育委員会、学校教育、社会教育、文化振興の事業・施設運営費を計上し、合計で3億94百万円を要求しており、昨年度予算額と対比すると8百万円の減額です。昨年度は、スクールバス購入、総合体育館外構工事費・備品購入予算がありましたので、これが減額の主なものです。

町長 具体的な内容を説明いただきました。これは、予算要求の段階でありますので、1月に副町長と私が査定を行い、事業の有無を決定し、3月の定例会に提出します。

来週には町全体の予算が集計されます。例年は、5億円、6億円の財源不足で、査定において切り詰めなければならないのが頭の痛いところです。例えば、来年度は診療所建設で6億円計上されていたとして、この建設を行わないこととしても、補助金や起債などの財源が含まれていますので、実際は財源不足分の減額にはつながりません。行政でいう単独事業、補助金などの他から来るお金が含まれていない事業を切り詰めていかなければなりません。

教育委員会予算では、黒松内中学校は雨漏りがあり、局所的には直していますが、まだ、続いています。エコ改修から10年余り経ちますので、トップライトの防水加工をやり直したいと考えています。

小学校における外国語の授業が拡大するため、外国人の英語講師を1名加えていきます。

町営塾は、東京理科大学長万部キャンパスの協力をいただきスタートしました。学生の時間がある時に、講師として来ていただいていますので、テスト期間や長期休暇などの来られない時にどうするかが課題です。

ブナセンターやキャンプ場、ビジターセンターなど観光色が強い施設は、これからも教育委員会所管でいいかを、観光のあり方の検討を委託会社に出しています。近い将来、観光担当課への集約を、又は、観光協会などへの指定管理の委託化を考える時期ではないでしょうか。本町も、観光に少し力を入れていきたい、家族や夫婦単位などの小規模で、他では体験できないこと、町の身の丈にあった観光を、観光協会が法人化したこともあり、職員も増やし、黒松内らしい観光を目指していきます。外国人の富裕層も対象にしたいと考えています。

教育委員会の業務は、例えば子どものことに取り組むことにシフトしていくと、考えています。

委員の皆さんからのご意見をお聞きします。

教育長 町営塾では、参加している中学生や講師の大学生の声をまとめて、チラシを作成しました。委員にも送らせていただきます。

12月19日現在では、中学生が途中で増えて24名、大学生は10名になりました。

た。大学生は、毎回、3名から6名ずつ来ています。

マナヴェールを夜間開放し、午後6時30分から8時まで行っており、中学校の先生らが見学に来られた時がありました。

学習方法は、生徒が自分で勉強したいところの教材を持って来ています。

ここは学ぶ意欲づくりを主目的にしており、家庭のひとつとして学ぶ意欲を、喚起する場づくりに努めています。

大学生は、2月中旬以降に退寮しますので、その後の期間は、別な専門的な人を招き、例えば進学塾の方による入試対策講座、高校教師による学びの講座などを検討しています。決まりましたら、お知らせ等にて周知します。

12月8日には、町長と長万部キャンパスに行き、教務部長と来年度のお話しをし、来年度からは本格実施になります。

町長 町営塾は、大学生の学業を中心した日程で、可能な日が定められますので、来られない日、1年を通してどのようにするかを考えて行かなければなりません。まずは、立ち上がった段階で学ぶだけではなく、学ぶ意欲が高まるような仕掛けが必要です。

また、北海道からの要請もあり、平成30年度に、白井川小学校で1日防災学校を行います。

教育長 防災学校では、白井川小学校だけではなく、白井川中学校が一部の時間だけでも参加できないか、検討しています。

委員③ 白井川地区におけるスクールバスの運行は、どのようになりますか。

事務局 現在、黒松内校区から白井川小学校と白井川中学校に通う児童生徒5名は、スクールバスとは別に、作開から白炭、中ノ川、黒松内を経由し、学校に送迎しています。

来年度はこの運行を取り止め、作開と中ノ川から黒松内小学校、黒松内中学校に送迎しているバスに乗っていただき、白井川小学校までの送迎を考えています。

朝の迎え時間は、10分から15分早くなってしまう。白井川小学校の到着時間は、登校時間の5分前の8時15分を見込んでいます。黒松内中学校では、大成からの生徒が1年生になることもあり、現在の行きは3台体制、帰りは2台体制から、帰日も3台体制になります。

町長 現在の委託先から、来年度は白井川地区に通う児童生徒の送迎はできないと申し出があり、スクールバスの運行体制を見直いたしました。

委員② 町営塾では、大学生に協力いただいています。教育長がお話しされていたちょっと上のお兄さんたちに教えてもらうということは良いことです。ただ、受験を控え、しっかりやりたい3年生とワイワイとしながら学びたい1、2年生の気持ちは異なると思いますので、この面を考慮した仕組みが必要ではないでしょうか。

大学生は相互に教え合うという良さはありますが、教えることが専門ではなく、学び方を教えるのは難しいと思いますので、塾の方などの専門的な人の力を加えることや、ネットの活用も含めて必要ではないかと思います。

町 長 教育長、どうでしょうか。

教育長 12月の段階で、中学生と保護者にアンケートをする予定です。マナヴェールでは、学年毎に分かれて座っています。

中には、自分が分からないところに戻って学びたいという生徒もおりますので、ここも教えられるきめ細やかな対応ができればと考えていますし、学校とも連携したいと考えています。

町 長 大学に行きお聞きしたところでは、大学生は在町するのが1年間だけですのでアルバイトを禁止するなど、学業中心にしておりますので、町側の思いだけは進めないと感じました。

委員②のお話のとおり、大学生は教えることは素人ですが、教授からは、「教えることを通じて大学生自身が成長していることが大きく見られる。」と、お話しをいただきました。

このことで、本町への町営塾のボランティアも認めていただいているところです。

学年毎や学力別の対応も含めると、色々と考えられ、どこまでの対応をするのかを、意見を参考としながら良い方向に向かい、検討してまいります。

町 長 教育予算ではありませんが、現在、運行している路線バスの日曜日・祝日の運休についてを、ご説明します。皆さんには、回覧でお知らせしておりますが、一番の理由は運転手不足とのことです。観光バス・貸し切りバスの会社に、運転者が移ってしまい、特に、地方では顕著だそうです。

運休するには関係町村の合意が必要です。この地域内では、バスしか生活路線がない町村もあり一番、反対をしていました。

しかし、バス会社からは最後まで反対しているのであれば、維持するためには、平日も止めざるを得ないと言われました。このことを受けて、やむを得ず同意し、12月から運行体制が変わっています。隣町から本町までの区間と、本町を經由して一つ先の町まで行く区間が対象です。

バス会社では、昨年7月頃の1ヶ月間、乗車している方に、乗車目的や日曜日の乗車の可能性、乗車頻度などの聞き取り調査をしています。

結果は、一般の方では日曜日・祝日に定期的に乗車している方はおらず、平日の乗車数は、2名から3名でした。時折、飲酒する機会があり、自家用車を置き、帰りに乗車する方がいらっしゃいました。

A町に通う高校生はJRを利用しておりますので、該当するのはB町にバスで通う高校生2名です。平日はもちろん利用していますが、週末に部活のための乗車はあま

り無いとのことでした。

事務局 顧問にお聞きしたところ、日曜日の部活は原則行っていないとのことでした。

町 長 休日に、友達に遊びに行くのに乗車している例はありましたが、すぐに、影響が出ることはない判断し、町としての対応は行わないこととしております。

J Rの減便を受け、近隣にある高校では帰りの便や朝の便にバスを、本町まで運行していただいています。この近隣校の状況もあることから、今後、部活がある場合には、今回のバス路線を運休に影響がある高校や町で対応していただけないかを相談することがあるかもしれません。

町では、すぐに、対応は行いませんが、継続して状況を把握して、その町や高校とも話しをしながら、必要があればできる範囲で対応を検討していきます。

現在のところ、苦情は町やバス会社には無い状況です。

委員① J Rは、どのようになっていますか。

町 長 黒松内駅周辺の函館線は、2030年の新幹線札幌延伸時には、J Rからの経営分離が決定しており、沿線自治体はその後の公共交通についてを決定することになっています。

並行在来線協議会を、年1回開催しており、本町は長万部から小樽間の会議に出席し、新幹線開通効果や道南いさりび鉄道の経営状況の情報交換をしています。

在来線を鉄道として維持する場合には、いさりび鉄道が参考になります。経営状況を見ると、10年間では23億円の赤字が試算されており、北海道や沿線自治体が負担しています。収入面では、旅客運賃の営業収入よりも貨物列車の鉄道使用料が大きく占めています。本町の区間では線路・橋脚等が傷んでおり、貨物列車の運行に耐えられないと考えていますので、その収入が見込まれません。

個人の考えではありますが、沿線自治体で早期に鉄道の維持を決定し、J Rに対して貨物列車が運行できるインフラを引き継ぎ前までに、要望してはどうかと思っています。

北海道知事が、赤字路線区間のインフラの老朽化解消のため、国や北海道、沿線自治体で財源を負担すると表明していますので、並行在来線区間も同様に財政支援の対象とするようことも大切ではないでしょうか。

本町が含まれる並行在来線区間では、いさりび鉄道と比べて延長が長いので、23億円と比べもっと大きな額になり、沿線自治体で負担するのは限りなくできないことと思います。

時間があるうちに、維持費が少ない方法を考えていきたい。いずれにしても、早くに収支予測を出してほしいと思います。

北海道は、新幹線札幌延伸の5年前に決定すればいい、焦ってすぐに決定しなくともよいとの認識のようです。

しかし、地元では5年前では、その後のインフラ整備を考えると、期間が短いことから、少しでも早くに決定すべきと感じています。

本町にJRを守る会ができました。この会と気持ちは同じですが、バスも含めて近隣町村も巻き込んで、公共交通機関を守っていく、維持していくのかを考えていかななくてはなりません。

長万部から小樽間の中では、本町周辺は危機感をもっていますが、余市や小樽ではそれなりの乗客があるのでJRが残るのではと思っているようです。市町村長でも危機感に対する温度差はあります。

例えば、小樽から倶知安間はJRで、倶知安から長万部間は異なる交通体系ということもあるかもしれません。

来年度の町全体の予算としては、いよいよ診療所を2か年で建設しますので、支障物件の解体工事を行っており、2月頃までには全ての施設が解体される予定です。

概算の全体事業費は12億7千万円で、国庫補助金は61百万円を予定しており、補助申請すると交付決定は8月頃ですので、その後、入札、議会議決の手続きをすると、工事着手は10月頃になると思います。冬期間の工事では、除雪費も必要で約3千万円が増額になりますし、冬期間の工事は業者も人手集めが大変です。補助金と工事期間などを考えると、悩ましいところです。

予定していた時間となりましたが、今後の予定で事務局からありますでしょうか。

事務局 本年度では、開催の予定はありません。

町長 予算の話しをいろいろとさせていただきましたが、予算編成後の3月定例会前にその内容を説明する機会があつていいのかもしれませんが。

教育長 総合教育会議がいいのか、教育委員会に町長に出席していただくのがいいのか。

事務局 2月下旬には、教育委員会で予算を提案する予定です。

町長 スケジュールがあえば、考えておきます。それでは、これで第2回総合教育会議を終了します。今日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。